

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	甲子園短期大学
設置者名	学校法人 甲子園学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	生活環境学科	夜・通信			10	10	7	
	幼児教育保育学科	夜・通信			8	8	7	
		夜・通信						
		夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.koshien-c.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2022/05/05-jitumukeiken.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	甲子園短期大学
設置者名	学校法人 甲子園学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.koshien.ac.jp/honbu/document/officers_list.pdf (役員等の名簿)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	2021. 4. 1 ～ 2023. 3. 31	学院の経営全般
非常勤	団体顧問	2021. 4. 1 ～ 2023. 3. 31	学院の経営全般
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	甲子園短期大学
設置者名	学校法人 甲子園学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>毎年新年度に向けて3月末までにシラバスを作成しウェブ上に公開している。学生はパソコンや携帯端末を利用していつでも閲覧可能である。シラバスは統一した形で各担当教員が講義概要作成マニュアルにもとづいて作成している。本学のシラバスは、各授業科目について単位数、開講時期、教科書/参考書のほかに、授業目的、授業内容/方法、到達目標、15回の授業計画、単位認定の方法、を記述している。学生は各セメスターはじめのオリエンテーションで、シラバスを確認し、履修登録を行っている。</p>	
授業計画書の公表方法	https://syscolla.net/koshien-c/syllabus/index.aspx
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>シラバスにもとづき15回の授業を実施した後、授業ごとに学習成果の到達度評価を行っている。評価の方法については、シラバスに記載し各授業担当から授業はじめに学生に周知している。授業については、講義科目のほかに演習科目や実技科目があるが、試験やレポート、実技テスト、実技作品などそれぞれ各授業の到達度がわかる方法で成績評価を行っている。また、試験期間の前には、非常勤講師含め全教員に厳格かつ適正に評価するよう文書で依頼している。学習成果の到達度については、5段階で評価し、60点以上を合格とし、90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、59点以下をDとしている。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>客観的な指標の一つとしてGPAを設定している。GPAについてはその計算方法を入学時に配布する学生便覧に掲載し公表するとともに、オリエンテーションやガイダンスで学生に周知している。GPAについては、卒業式等の代表選考資料や、編入学、実習審査等の資料の一つとして活用している。なお、GPAについては、学生に配布する成績通知票に、履修した科目の成績と併せて記載し、学生が自分のGPAを把握できるようにしている。履修科目数や取得単位数の状況等については、内部質保証ワーキングチームを設け、データの収集解析を行っている。</p> <p>【GPAを算出する計算式】</p> $\frac{\text{(当該学期に評価を受けた各授業科目で得たGP} \times \text{当該授業科目の単位数)} \text{の合計}}{\text{各学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計}}$ <p>【成績評価とGP】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価区分</th> <th>本学の評価</th> <th>評価基準</th> <th>付加するGP</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100～90点</td> <td>S</td> <td>到達目標を達成し、きわめて優秀な成績をおさめている</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>89～80点</td> <td>A</td> <td>到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>79～70点</td> <td>B</td> <td>到達目標を達成している</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>69～60点</td> <td>C</td> <td>到達目標を最低限達成している</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>59～0点</td> <td>D</td> <td>到達目標を達成していない</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>GP (Grade Point) : 成績評価に応じて与えられる数値</p>		評価区分	本学の評価	評価基準	付加するGP	100～90点	S	到達目標を達成し、きわめて優秀な成績をおさめている	4	89～80点	A	到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている	3	79～70点	B	到達目標を達成している	2	69～60点	C	到達目標を最低限達成している	1	59～0点	D	到達目標を達成していない	0
評価区分	本学の評価	評価基準	付加するGP																						
100～90点	S	到達目標を達成し、きわめて優秀な成績をおさめている	4																						
89～80点	A	到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている	3																						
79～70点	B	到達目標を達成している	2																						
69～60点	C	到達目標を最低限達成している	1																						
59～0点	D	到達目標を達成していない	0																						
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.koshien-c.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2022/05/2gpa.pdf https://www.koshien-c.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2022/06/R3-gpabunpu_.pdf																								
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>建学の精神に基づく教育目的・目標を明確にし、それを踏まえて3つの方針を一体的に策定し、本学のホームページを介してウェブ上に公開している。卒業の認定に関する方針については、時代に即し、地域社会の要請にこたえているかなどの観点から点検し、毎年IR推進委員会で検討している。卒業に必要な単位数については、学則に記述するとともに、学生便覧に記載し、2月末の卒業判定会議、教授会を経て、卒業認定している。</p>																									
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.koshien-c.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2022/05/04sotugyouointei.pdf																								

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	甲子園短期大学
設置者名	学校法人 甲子園学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.koshiengakuin.jp/about_us/finance.html (財務状況一覧)
収支計算書又は損益計算書	https://www.koshiengakuin.jp/about_us/finance.html (財務状況一覧)
財産目録	https://www.koshiengakuin.jp/about_us/finance.html (財務状況一覧)
事業報告書	https://www.koshiengakuin.jp/about_us/finance.html (財務状況一覧)
監事による監査報告(書)	https://www.koshiengakuin.jp/about_us/finance.html (財務状況一覧)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:令和4年度事業計画書 対象年度:令和4年度)
公表方法: https://www.koshiengakuin.jp/about_us/finance.html (財務状況一覧)
中長期計画(名称:中期計画 対象年度:令和2~6年度)
公表方法: http://www.koshien.ac.jp/honbu/about_us/finance.html (中期計画の概要)

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.koshien-c.ac.jp/extra/public-info/ (自己点検・評価報告書)

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.koshien-c.ac.jp/document/about/policy/02kekka.pdf

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 生活環境学科
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法:https://www.koshien-c.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2021/06/03-jinzaiousei.pdf)</p> <p>(概要) 本学の教育理念に則り、「環境・健康・福祉」の三つのテーマを核にして、自らの生活力を高め、自己理解力、人を思いやる心を育成して人間性を培う。ライフキャリアフィールドにおいては生活環境に関する知識及び技能を習得し、豊かで安全・快適な生活を創造し持続的な社会の発展に貢献できる人材の養成を目的とする。介護福祉フィールドにおいては心豊かな人間性と高い倫理観を保持し、尊厳と自立を支える専門的なケアを実践できる介護福祉士の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法:https://www.koshien-c.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2022/05/4sotugyouinnte.pdf)</p> <p>(概要) 建学の精神に基づく教育目的・目標を明確にし、それを踏まえて3つの方針を一体的に策定し、本学のホームページを介してウェブ上に公開している。卒業の認定に関する方針については、時代に即し、地域社会の要請に応じているかなどの観点から点検し、毎年IR推進委員会で検討している。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法:https://www.koshien-c.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2022/05/4sotugyouinnte.pdf)</p> <p>(概要) ライフキャリアフィールド専門教育科目は、現代社会の諸問題の解決をめざして環境やICT(情報通信技術)、生活全般、身体や健康、医療に関する知識、技能、表現能力について講義、演習、実習を組み合わせた授業形態により身につける科目群である。教育課程全般を通じて、グループ・ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等のアクティブ・ラーニングの教育方法も活用し、学生の理解と実践力、自律力を高め、観察力を養う。また、教育課程の評価については、専門教育に係る科目における学習状況をもって、教育課程全体を通じた学習成果の総括的評価を行う。介護福祉フィールド専門教育科目は、介護福祉士養成課程カリキュラムに基づき、介護福祉士として専門的な知識・技能・態度を身につけるために講義、演習、実習といった授業形態により行われる必修科目群である。教育課程全般を通じて、グループ・ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等のアクティブ・ラーニングの教育方法も活用し、学生の理解と実践力を高める。また、教育課程の評価については、介護福祉士国家試験受験資格に係る科目における学習状況をもって、介護福祉士養成課程全体を通じた学習成果の総括的評価を行う。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法:https://www.koshien-c.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2022/05/4sotugyouinnte.pdf)</p> <p>(概要) 今までの学びを継続的・発展的・多面的に捉え発信していこうとする人、目的意識を持って、主体的に夢に向かってチャレンジできる人、教養を深め専門的な知識と技能を獲得するために自ら努力できる人、豊かな感性と想像力、コミュニケーション力を有し社会の一員として自覚と責任感を持って行動できる人、他者と協力しながら共に学び社会に貢献しようとする意欲のある人等、本学の建学の精神と教育理念を理解し努力できる人を求めている。生活環境学科では特に生活を取り巻く環境・健康・福祉に興味がある人、他者の気持ちを理解し、円滑なコミュニケーションと人間関係を築ける人を求めている。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： https://www.koshien-c.ac.jp/document/about/public-info/05-organization.pdf
--

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 幼児教育保育学科
教育研究上の目的 (公表方法: https://www.koshien-c.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2021/06/03-jinzaiyousei.pdf) (概要) 本学の教育理念に則り、幼児教育・保育に関する知識と実践に役立つ技能を身につけ、保護者等から信頼され、人間性豊かで指導力のある人材の養成を目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: https://www.koshien-c.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2022/05/4sotugyouinnte.pdf) (概要) 建学の精神に基づく教育目的・目標を明確にし、それを踏まえて3つの方針を一体的に策定し、本学のホームページを介してウェブ上に公開している。卒業の認定に関する方針については、時代に即し、地域社会の要請に応じているかなどの観点から点検し、毎年IR推進委員会で検討している。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: https://www.koshien-c.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2022/05/4sotugyouinnte.pdf) (概要) 学位授与及び幼稚園教諭二種免許状・保育士資格取得を志す者として、幼児教育保育学科が掲げる教育目標とディプロマ・ポリシーを達成するため、「総合教養科目」「専門教育科目」からなる教育課程を編成する。「総合教養科目」は、短期大学士として必ず身につけておかなければならない資質の基礎を養う科目群であり、また、現代の教育保育を支える教養的知識を身につけた教育者・保育者になるための基礎となる科目群でもある。「専門教育科目」は、幼稚園教諭・保育士としての知識・技能・態度を身につけるため、教育職員免許法・児童福祉法施行規則に基づいた必修科目及び選択必修科目群である。教育・保育に関する基礎理論に関する科目をはじめとして保育指導法などの応用的・実践的な科目、そして教育・保育実習、教職実践演習を履修するというように、適切な順序性をもって開講期を設定する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: https://www.koshien-c.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2022/05/4sotugyouinnte.pdf) (概要) 今までの学びを継続的・発展的・多面的に捉え発信していこうとする人、目的意識を持って、主体的に夢に向かってチャレンジできる人、教養を深め専門的な知識と技能を獲得するために自ら努力できる人、豊かな感性と想像力、コミュニケーション力を有し社会の一員として自覚と責任感を持って行動できる人、他者と協力しながら共に学び社会に貢献しようとする意欲のある人等、本学の建学の精神と教育理念を具体化できる人を求めている。幼児教育保育学科では、特に子どもの成長・発育・発達に興味関心がある人、子どもや他者から信頼され地域社会と連携できる保育者をめざす人を求めている。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： https://www.koshien-c.ac.jp/document/about/public-info/05-organization.pdf
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
生活環境学科	—	3人	1人	2人	1人	1人	8人
幼児教育保育学科	—	5人	3人	2人	0人	0人	10人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			39人				39人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.koshien-c.ac.jp/faculty/teacher/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
教育研究センターの所掌事項として毎年、教育・研究・学生指導・各種支援等について研修、学生支援に役立っている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
生活環境学科	30人	12人	40%	110人	23人	21%	人	人
幼児教育保育学科	40人	22人	55%	120人	51人	42%	人	人
合計	70人	34人	49%	230人	74人	32%	人	人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
生活環境学科	18人 (100%)	0人 (0%)	15人 (83.3%)	3人 (16.7%)
幼児教育保育学科	19人 (100%)	2人 (10.5%)	17人 (89.5%)	0人 (0%)
合計	37人 (100%)	2人 (5.4%)	32人 (86.5%)	3人 (8.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）【様式第2号の3より再掲】毎年新年度に向けて3月末までにシラバスを作成しウェブ上に公開している。学生はパソコンや携帯端末を利用していつでも閲覧可能である。シラバスは統一した形で各担当教員が講義概要作成マニュアルにもとづいて作成している。本学のシラバスは、各授業科目について単位数、開講時期、教科書/参考書のほかに、授業目的、授業内容/方法、到達目標、15回の授業計画、単位認定の方法、を記述している。学生は各 Semester はじめのオリエンテーションで、シラバスを確認し、履修登録を行っている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）【様式第2号の3より再掲】建学の精神に基づく教育目的・目標を明確にし、それを踏まえて3つの方針を一体的に策定し、本学のホームページを介してウェブ上に公開している。履修登録については、原則1年間に50単位までとしている。また、より教育効果を高めるため、成績評価基準の一つとして、学修の成果を数値化したGPAを用いている。卒業の認定に関する方針については、時代に即し、地域社会の要請にこたえているかを点検し、毎年IR推進委員会で検討している。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	生活環境学科	66単位	有・無	単位
	幼児教育保育学科	66単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法： https://www.koshien-c.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2022/05/2gpa.pdf		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：
<https://www.koshien-c.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2021/08/03-facilities.pdf>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	生活環境学科 (ライフキャリア)	642,000 円	300,000 円	515,600 円	
	生活環境学科 (介護福祉)	642,000 円	300,000 円	554,100 円	
	幼児教育保育 学科	642,000 円	300,000 円	570,800 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要) 履修に関しては、各セメスターが始まる前にガイダンス日を設け、開講科目や各資格を取得するために必要な科目についての説明を行い、履修登録を行っている。授業科目について説明しているシラバスについては、15回の授業内容や事前・事後学習の内容、到達目標、評価の方法など明示しており、学生は所持している携帯端末からウェブシラバスにアクセスし履修科目について知ることができるように配慮している。</p> <p>学生便覧には、カリキュラムマップや履修モデルを作成し示している。短大ではさまざまな授業を開講しているが、教育課程を体系化し、カリキュラムマップを作成して、各授業科目とディプロマポリシーの関係をマトリックスで示したり、履修モデルでは、授業科目の分類と履修時期を示し2年間の学びのステップをわかりやすく明示し修学支援を行っている。</p> <p>学習に関しては、全教員が1回目の授業で学習内容や到達レベルについての説明を行い、学生が効果的に学習成果があげられるように配慮している。なお学生の質問に対しては、各授業の最後に自由に受け付けると同時にオフィスアワーを設け、授業に関する質問や授業以外の学習や学生生活全般に関する相談支援も行っている。15回の授業終了後に試験を行っているが各授業の成績通知時に成績通知票にGPAを示し、学生が学習成果の到達度を把握できるようにしている。GPAの計算方法については学生便覧に示している。</p> <p>設備面では、最近パワーポイント等を使って授業を行う教員が増えており、ノートパソコンやプロジェクターを準備しいつでも貸出し使用できるようにしている。またラーニングコモンズを設け、ネット検索や授業のレポート作成や課題学習などの学習支援を行っている。幼児教育保育学科ではピアノが弾けることを重視しているが、ピアノフリーレッスルームをピアノの専任教員の研究室の横に設け学生が自由に空き時間等を利用して練習できるようにしている。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要) セメスター毎に担任が学生と面談を行い、進路・進学についての希望を把握している。平成26年度より、学生部と就職部を統合し、学生支援として学生部に一本化し、学生生活支援とともに進路支援を行っている。毎月1回開催の学生部委員会では就職活動状況や求人情報について意見交換を行い、就職ガイダンス各期の具体的な就職支援対策について協議している。また、毎月1回開催の合同担任協議会でも就職課からの報告を受け、各担任が学生の就職活動状況や求人情報を共有し具体的な就職支援策を協議している。</p> <p>学生支援室では、求人情報については業種別に掲示板に掲示するとともに、過去の情報等をファイリングしており、自由に閲覧できる環境を整えている。また、インターネットで自由に検索できるスペースや面接練習のスペースを設けてきめ細かな就職支援を展開している。その結果、個別面談指導・履歴書・エントリーシート・文書の書き方指導などで学生の高い満足度を得ている。</p> <p>進学に対する支援としては、卒業後の進路の一つとして、4年制大学への編入学を薦めており、学生支援室に編入学の資料を揃え、自由に閲覧できる環境を整えている。編入学を希望する学生には、学務部に所属する教員が志望校に対応した個別指導を行っている。</p>

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要) 学生の健康管理、メンタルヘルスケアやカウンセリングの体制として、保健室に養護教諭が常駐し健康や保健に関する指導や助言を行っている。負傷や体調不良などに対しては応急処置を施し、必要であれば医療機関へ連絡、搬送するなど急患対策にも配慮している。全学生を対象に定期健康診断を4月に実施している。有所見者には再検を実施し、さらに精密検査が必要な学生には個別に対応し、有病者の早期発見、早期治療ならびに予防に役立てている。保健室にて養護教諭による相談・指導を随時行っているが、定期的に学校医による学生の健康相談・保健指導を行っている。カウンセリングルームでは毎週1日、臨床心理士によるカウンセリングを実施している。特に支援が必要な学生については「障害学生就学支援委員会」において状況を把握し、具体的な支援方法を決定し、学生課を中心に教職員が個々の状況に対応した支援を実施している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : <https://www.koshien-c.ac.jp/extra/public-info/>

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	甲子園短期大学
設置者名	学校法人 甲子園学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		12人	8人	12人
内 訳	第Ⅰ区分	-人	-人	
	第Ⅱ区分	-人	-人	
	第Ⅲ区分	-人	-人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				12人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	0人	1人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	人	0人	1人
計	人	0人	1人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	人	2人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	人	0人
計	人	人	2人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F228310109088
学校名	甲子園短期大学
設置者名	学校法人 甲子園学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		12人	8人	12人
内 訳	第Ⅰ区分	—	—	
	第Ⅱ区分	—	—	
	第Ⅲ区分	—	—	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				12人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)		0人	1人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		0人	0人
「警告」の区分に連続して該当		0人	—
計		0人	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	前半期	後半期	
		0人	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
		年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)			0人	0人
G P A等が下位4分の1		—		2人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況		—		
計		—		2人
(備考)				

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。